

2011年3月期 第2四半期決算説明会

2010年11月1日
株式会社電通国際情報サービス

COPYRIGHT 2010 INFORMATION SERVICES INTERNATIONAL - DENTSU, LTD. ALL RIGHTS RESERVED.

AGENDA

第1部 2011年3月期第2四半期決算概況、 および通期の業績見通しについて

取締役 常務執行役員
梅沢 幸之助

第2部 新中期経営計画 ～iSiD Open Innovation 2013～

代表取締役社長 最高執行責任者
釜井 節生

I. 2011年3月期第2四半期 決算概況

取締役 常務執行役員
梅沢 幸之助

1. 2011年3月期第2四半期 連結業績

【前期比】 売上高前期並み。プロジェクト管理の更なる強化に加え、外注費の抑制が進んだことから売上総利益率改善。人員削減、経費の徹底的な見直しにより販管費を10億円抑制した結果、営業利益は前年同期比16億円の増益。

【予想比】 売上高予想上回る。売上増効果に加え、経費削減および研究開発の計画見直し等により販管費を抑制した結果、営業利益は予想を8億円上回った。

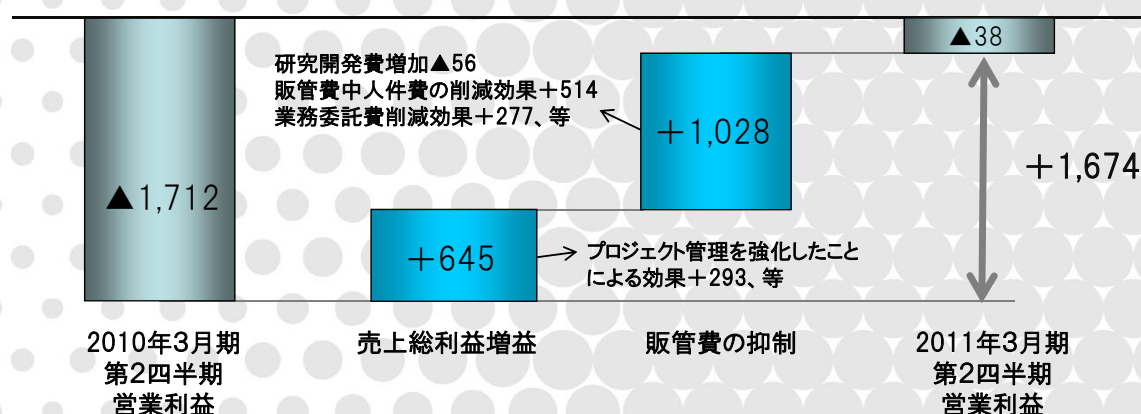
(単位:百万円)

	11年3月期 第2四半期	前年同期との比較			7/30発表予想値との比較		
		10年3月期 第2四半期	増減額	増減率	予想値	増減額	増減率
売上高	28,878	28,710	+168	+0.6%	28,452	+426	+1.5%
売上総利益	8,896	8,251	+645	+7.8%	—	—	—
売上総利益率	30.8%	28.7%	+2.1pts	—	—	—	—
販管費及び一般管理費	8,935	9,963	▲1,028	▲10.3%	—	—	—
営業利益	▲38	▲1,712	+1,674	—	▲874	+836	—
営業利益率	▲0.1%	▲6.0%	+5.9pts	—	▲3.1%	+3.0pts	—
経常利益	84	▲1,552	+1,636	—	▲890	+974	—
四半期純利益	▲1,547	▲1,303	▲244	—	▲2,156	+609	—

2. 連結営業利益の増減要因(前年同期比)

- 【売上総利益】 プロジェクト管理を強化したことによる効果(+293百万円)に加え、内製化およびオフショアの更なる活用により、売上総利益率が改善
- 【販管費】 研究開発費を増やしたものの、人員削減等による合理化施策の実施、人件費の圧縮、ならびに業務委託費等各種経費の徹底的な見直しにより1,028百万円削減
- 【営業利益】 結果、営業利益は▲38百万円(+1,674百万円)

(単位:百万円)



COPYRIGHT 2010 INFORMATION SERVICES INTERNATIONAL - DENTSU, LTD. ALL RIGHTS RESERVED.

5

3. 1 事業セグメント別 連結売上高

金融ソリューション

(単位:百万円)

11年3月期 第2四半期	前年同期との比較			7/30発表予想値との比較		
	10年3月期 第2四半期	増減額	増減率	予想値	増減額	増減率
8,575	8,284	+291	+3.5%	7,743	+832	+10.7%

(主として金融機関向けに、各種金融サービスに関わるソリューションを提供する事業)

- ✓ 大手銀行向けに海外拠点システム、市場系システム、情報系システム等の受託システム開発案件が拡大したことに加え、証券、損保から新規案件を獲得。ソフトウェア製品も、大手銀行向け「流動性管理システム」のアドオン開発サービスを中心に拡大したことから、増収となった。
- ✓ 地域金融機関向けソリューション「BANK・R」は、地銀の投資抑制の影響を受けたが、新規に2行から受注。その他、インターネットバンキングシステムなどの引き合いが活況。

(注意) 前期数値(10年3月期第2四半期)は参考数値です。

COPYRIGHT 2010 INFORMATION SERVICES INTERNATIONAL - DENTSU, LTD. ALL RIGHTS RESERVED.

6

3. 2 事業セグメント別 連結売上高

エンタープライズ・ソリューション・ビジネス系

(単位: 百万円)

11年3月期 第2四半期	前年同期との比較			7/30発表予想値との比較		
	10年3月期 第2四半期	増減額	増減率	予想値	増減額	増減率
5,995	6,483	▲488	▲7.5%	6,050	▲55	▲0.9%

(全業種を対象に基幹業務、経営管理に関わるソリューションを提供する事業)

- ✓ 基幹業務システム(ERP)の立ち上げが複数あったこと等から、ソフトウェア商品はアドオン開発保守を中心に拡大したものの、新規案件の獲得が伸び悩んだことから、受託システム開発、ソフトウェア製品、情報機器販売・その他を中心に減収となった。
- ✓ 主力製品である人事管理システム「POSITIVE」はほぼ前期並み。連結会計システム「STRAVIS」は、旧バージョンからの移行が一巡したことが影響し厳しく推移した。

(注意) 前期数値(10年3月期第2四半期)は参考数値です。

3. 3 事業セグメント別 連結売上高

エンタープライズ・ソリューション・エンジニアリング系

(単位: 百万円)

11年3月期 第2四半期	前年同期との比較			7/30発表予想値との比較		
	10年3月期 第2四半期	増減額	増減率	予想値	増減額	増減率
8,945	8,959	▲14	▲0.2%	9,610	▲665	▲6.9%

(主として製造業向けに製品開発・製造分野のソリューションを提供する事業)

- ✓ CAD/CAM/CAE/PLM等のソフトウェア商品、設計・開発業務支援システム「iPRIME NAVI」等のソフトウェア製品はライセンス販売を中心に堅調に推移したが、コンサルティングサービスが落ち込んだため、ほぼ前期並みとなった。
- ✓ 注力している設計・開発業務支援システム「iPRIME NAVI」と関連する各種サービスは、導入社数が拡大。

(注意) 前期数値(10年3月期第2四半期)は参考数値です。

3. 4 事業セグメント別 連結売上高

コミュニケーションIT

(単位: 百万円)

11年3月期 第2四半期	前年同期との比較			7/30発表予想値との比較		
	10年3月期 第2四半期	増減額	増減率	予想値	増減額	増減率
5,362	4,983	+379	+7.6%	5,047	+315	+6.2%

(電通グループとの協業による、企業向け各種ソリューションを提供する事業)

- ✓ 電通向けはほぼ前期並み。電通グループ会社向けに受託システム開発、情報機器販売が拡大したことから、増収となった。
- ✓ 電通との協業分野では、家電エコポイント、住宅エコポイントの案件は継続中。クラウド分野において、電通、セールスフォースドットコム、弊社の協業が発表されるなど、順調に進んでいる。

(注意) 前期数値(10年3月期第2四半期)は参考数値です。

4. サービス品目別 連結売上高

- | | |
|-----------------|-------------------------------------|
| 【コンサルティング】 | 製造業のIT投資抑制が予想以上に厳しく推移 |
| 【受託システム開発】 | 金融が大手銀行向けを中心に好調 |
| 【ソフトウェア製品】 | 金融、およびエンジニアリング系が順調に拡大したものの、ビジネス系が不調 |
| 【ソフトウェア商品】 | ビジネス系、エンジニアリング系が好調 |
| 【アウトソーシング・運用保守】 | 主要顧客向けを中心に予想を上回るも、前年同期比は微減 |
| 【情報機器他】 | 主要顧客向けを中心に予想を上回るも、金融、ビジネス系が大幅減収 |

(単位: 百万円)

	11年3月期 第2四半期	前年同期との比較			7/30発表予想値との比較		
		10年3月期 第2四半期	増減額	増減率	予想	増減額	増減率
コンサルティングサービス	721	876	▲155	▲17.7%	1,388	▲667	▲48.1%
受託システム開発	8,307	7,808	+499	+6.4%	7,502	+805	+10.7%
ソフトウェア製品	4,055	3,749	+306	+8.2%	4,427	▲372	▲8.4%
ソフトウェア商品	10,353	10,027	+326	+3.3%	10,237	+116	+1.1%
アウトソーシング・運用保守サービス	2,547	2,635	▲88	▲3.3%	2,392	+155	+6.5%
情報機器販売・その他	2,893	3,614	▲721	▲20.0%	2,504	+389	+15.5%
合計	28,878	28,710	+168	+0.6%	28,452	+426	+1.5%

5. 連結キャッシュ・フロー

(単位:百万円)

	2010年4月～ 2010年9月	2009年4月～ 2009年9月	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	749	346	+403
投資活動による キャッシュ・フロー	▲720	▲1,989	+1,269
財務活動による キャッシュ・フロー	▲941	▲1,041	+100
現金及び現金同等物に 係る換算差額	▲108	▲84	▲24
現金及び現金同等物の 増減額(▲は減少)	▲1,021	▲2,768	+1,747
現金及び現金同等物の 期首残高	11,215	14,174	▲2,959
現金及び現金同等物の 四半期末残高	10,194	11,405	▲1,211

< 今期のトピック >

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前四半期純損失(▲1,915百万円)
仕入債務の減少(▲2,051百万円)
売上債権の減少(1,991百万円)
前受金の増加(1,746百万円)
減価償却費(1,477百万円)

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

無形固定資産の取得による支出(▲532百万円)
関係会社株式の取得による支出(▲149百万円)

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

リース債務の返済による支出(▲616百万円)
配当金の支払(▲325百万円)

6. 連結貸借対照表

(単位:百万円)

	2010年 9月30日	2010年 3月31日	増減	主な増減要因(対前連結会計年度末)
流動資産	28,691	30,452	▲1,761	受取手形及び売掛金の減少(▲2,003百万円) 預け金の減少(▲1,165百万円) 前渡金の増加(847百万円)
固定資産	19,275	19,457	▲182	償却等によるのれんの減少(▲267百万円) ソフトウェアの減少(▲129百万円) 繰延税金資産の増加(165百万円)
資産合計	47,967	49,910	▲1,943	
流動負債	14,393	14,763	▲370	支払手形及び買掛金の減少(▲2,054百万円) 前受金の増加(1,735百万円)
固定負債	2,160	1,666	494	資産除去債務会計基準の適用による資産除去債務 の増加(699百万円) リース債務の減少(▲166百万円)
負債合計	16,554	16,429	125	
純資産合計	31,412	33,480	▲2,068	四半期純損失の計上(▲1,547百万円)および剰余 金の配当(▲325百万円)による利益剰余金の減少 (▲1,873百万円)
負債純資産合計	47,967	49,910	▲1,943	

7. 受注・受注残＜連結＞

(単位:百万円)

	受注高		受注残高	
	2011年3月期 第2四半期	前年同期比	2011年3月期 第2四半期	前年同期比
受託システム開発	9,261	110.6%	2,528	109.8%
ソフトウェア製品アドオン開発	1,812	69.7%	1,104	70.1%
ソフトウェア商品アドオン開発	3,597	111.7%	1,034	131.6%
合計	14,671	103.3%	4,667	100.0%

II. 2011年3月期 業績予想

7. 1 2011年3月期業績予想＜連結＞

- ✓ 景気減速懸念から、企業のIT投資の回復は期初の想定より遅れると見込み、通期売上高予想を2010/10/26付けで下方修正。
- ✓ 営業利益、経常利益、当期純利益は据え置く。

(単位:百万円)

	11年3月期 通期	前期との比較			7/30発表予想値との比較		
		10年3月期 通期	増減額	増減率	予想値	増減額	増減率
売上高	61,737	61,155	+582	+1.0%	62,913	▲1,176	▲1.9%
営業利益	1,284	▲295	+1,579	—	1,284	—	—
営業利益率	2.1%	▲0.5%	+2.6pts	—	2.0%	+0.1pts	—
経常利益	1,275	▲238	+1,513	—	1,275	—	—
当期純利益	▲913	▲137	▲776	—	▲913	—	—

COPYRIGHT 2010 INFORMATION SERVICES INTERNATIONAL - DENTSU, LTD. ALL RIGHTS RESERVED.

15

7. 2 事業セグメント別売上高予想＜連結＞

- 【金融】 受託システム開発およびソフトウェア製品を中心に通期ほぼ前期並みも、情報機器販売が減収となる見込み
- 【ビジネス系】 新規受注が伸び悩んでおり、7/30予想を下回り、前期並みになる見込
- 【エンジニアリング系】 設計開発分野のコンサルティング、ソフトウェア製品が一部回復すると見込むものの、製造業の投資抑制の影響を受け、7/30予想を下回る見込
- 【コミュニケーションIT】 電通グループとの協業案件の拡大を図る

(単位:百万円)

	11年3月期 通期	前期との比較			7/30発表予想値との比較		
		10年3月期 通期	増減額	増減率	予想値	増減額	増減率
金融ソリューションセグメント	18,030	18,231	▲201	▲1.1%	18,210	▲180	▲1.0%
エンタープライズソリューション・ ビジネス系セグメント	13,494	13,453	+41	+0.3%	14,145	▲651	▲4.6%
エンタープライズソリューション・ エンジニアリング系セグメント	19,134	19,012	+122	+0.6%	19,692	▲558	▲2.8%
コミュニケーションITセグメント	11,077	10,458	+619	+5.9%	10,861	+216	+2.0%
合計	61,737	61,155	+582	+1.0%	62,913	▲1,176	▲1.9%

(注意) セグメント別の前期数値(10年3月期)については、参考数値となります。また、2010/5/12の決算発表資料に記載した数値から若干修正を加えております。

COPYRIGHT 2010 INFORMATION SERVICES INTERNATIONAL - DENTSU, LTD. ALL RIGHTS RESERVED.

16

7.3 サービス品目別売上高予想<連結>

【コンサルティング】	IFRS関連の拡大と設計開発分野の回復を見込むが、7/30予想を下回る
【受託システム開発】	金融を中心に堅調に推移する見込
【ソフトウェア製品】	金融向け、およびビジネス系が7/30予想ほど拡大しない見込
【ソフトウェア商品】	ビジネス系で会計システム、サプライチェーンに注力する
【アウトソーシング・運用保守】	ほぼ7/30予想通り、前期並みに推移すると予想
【情報機器他】	7/30予想は上回るものの、金融向け中心に前期比減収となる見込

(単位:百万円)

	11年3月期 通期	前期との比較			7/30発表予想値との比較		
		10年3月期 通期	増減額	増減率	予想値	増減額	増減率
コンサルティングサービス	2,372	2,026	+346	+17.1%	3,225	▲853	▲26.4%
受託システム開発	17,736	17,385	+351	+2.0%	17,600	+136	+0.8%
ソフトウェア製品	9,104	8,535	+569	+6.7%	10,694	▲1,590	▲14.9%
ソフトウェア商品	21,764	21,096	+668	+3.2%	21,278	+486	+2.3%
アウトソーシング・運用保守 サービス	5,087	5,111	▲24	▲0.5%	5,102	▲15	▲0.3%
情報機器販売・その他	5,671	7,000	▲1,329	▲19.0%	5,012	+659	+13.1%
合計	61,737	61,155	+582	+1.0%	62,913	▲1,176	▲1.9%

<参考資料>

- ・ 第2四半期個別業績
- ・ 通期業績予想(個別)
- ・ 下期業績予想(連結および個別)

◆ 2011年3月期第2四半期業績＜個別＞

サマリ

(単位:百万円)

	11年3月期 第2四半期	前年同期との比較			7/30発表予想値との比較		
		10年3月期 第2四半期	増減額	増減率	予想値	増減額	増減率
売上高	25,493	22,373	+3,120	+13.9%	25,290	+203	+0.8%
売上総利益	7,399	5,745	+1,654	+28.8%	—	—	—
売上総利益率	29.0%	25.7%	+3.3pts	—	—	—	—
販管費及び一般管理費	7,825	7,107	+718	+10.1%	—	—	—
営業利益	▲426	▲1,362	+936	—	▲874	+448	—
営業利益率	▲1.7%	▲6.1%	+4.4pts	—	▲3.5%	+1.8pts	—
経常利益	▲238	▲1,001	+763	—	▲785	+547	—
当期純利益	▲1,667	▲754	▲913	—	▲1,838	+171	—

(注意) 2009年10月1日付けで、連結子会社であった株式会社プレイニーワークス、株式会社iSiDテクノソリューションズをiSiD単体へ統合しております。

◆ 2011年3月期第2四半期業績＜個別＞

セグメント別売上高

(単位:百万円)

	11年3月期 第2四半期	前年同期との比較			7/30発表予想値との比較		
		10年3月期 第2四半期	増減額	増減率	予想値	増減額	増減率
金融ソリューションセグメント	7,383	5,031	+2,352	+46.8%	6,671	+712	+10.7%
エンタープライズソリューション・ ビジネス系セグメント	5,809	4,959	+850	+17.1%	5,722	+87	+1.5%
エンタープライズソリューション・ エンジニアリング系セグメント	8,590	7,408	+1,182	+16.0%	9,125	535	▲5.9%
コミュニケーションITセグメント	3,710	4,973	▲1,263	▲25.4%	3,771	▲61	▲1.6%
合計	25,493	22,373	+3,120	+13.9%	25,290	+203	+0.8%

(注意) 2009年10月1日付けで、連結子会社であった株式会社プレイニーワークス、株式会社iSiDテクノソリューションズをiSiD単体へ統合しております。セグメント別の前期数値(10年3月期)については、参考数値となります

◆ 2011年3月期第2四半期業績＜個別＞

サービス品目別売上高

(単位:百万円)

	11年3月期 第2四半期	前年同期との比較			7/30発表予想値との比較		
		10年3月期 第2四半期	増減額	増減率	予想値	増減額	増減率
コンサルティングサービス	500	574	▲74	▲12.9%	1,080	▲580	▲53.7%
受託システム開発	7,209	5,889	+1,320	+22.4%	6,414	+795	+12.4%
ソフトウェア製品	4,005	1,861	+2,144	+115.2%	4,419	▲414	▲9.4%
ソフトウェア商品	10,126	8,675	+1,451	+16.7%	9,896	+230	+2.3%
アウトソーシング・運用保守 サービス	1,417	2,469	▲1,052	▲42.6%	1,326	+91	+6.9%
情報機器販売・その他	2,234	2,902	▲668	▲23.0%	2,153	+81	+3.8%
合計	25,493	22,373	+3,120	+13.9%	25,290	+203	+0.8%

(注意) 2009年10月1日付けで、連結子会社であった株式会社ブレインワークス、株式会社iSiDテクノソリューションズをiSiD単体へ統合しております。

◆ 2011年3月期業績予想＜個別＞

サマリ・通期

(単位:百万円)

	11年3月期 通期	前期との比較			7/30発表予想値との比較		
		10年3月期 通期	増減額	増減率	予想値	増減額	増減率
売上高	53,865	52,992	+873	+1.6%	55,466	▲1,601	▲2.9%
営業利益	793	▲23	+816	—	793	—	—
営業利益率	1.5%	▲0.0%	+1.5pts	—	1.4%	+0.1pts	—
経常利益	986	343	+643	+187.5%	986	—	—
当期純利益	▲892	100	▲992	—	▲892	—	—

(注意) 2009年10月1日付けで、連結子会社であった株式会社ブレインワークス、株式会社iSiDテクノソリューションズをiSiD単体へ統合しております。

◆ 2011年3月期業績予想＜個別＞

事業セグメント別売上高・通期

(単位:百万円)

	11年3月期 通期	前期との比較			7/30発表予想値との比較		
		10年3月期 通期	増減額	増減率	予想値	増減額	増減率
金融ソリューションセグメント	15,377	13,830	+1,547	+11.2%	15,970	▲593	▲3.7%
エンタープライズソリューション・ ビジネス系セグメント	13,000	11,833	+1,167	+9.9%	13,390	▲390	▲2.9%
エンタープライズソリューション・ エンジニアリング系セグメント	18,052	16,903	+1,149	+6.8%	18,611	▲559	▲3.0%
コミュニケーションITセグメント	7,434	10,425	▲2,991	▲28.7%	7,494	▲60	▲0.8%
合計	53,865	52,992	+873	+1.6%	55,466	▲1,601	▲2.9%

(注意) 2009年10月1日付けで、連結子会社であった株式会社プレイニーワークス、株式会社iSiDテクノソリューションズをiSiD単体へ統合しております。2010年4月より、主としてコミュニケーションITセグメントの案件の一部を、子会社であるiSiDアドバンストアウトソーシングに移管しております。

◆ 2011年3月期業績予想＜個別＞

サービス品目別売上高・通期

(単位:百万円)

	11年3月期 通期	前年同期との比較			7/30発表予想値との比較		
		10年3月期 通期	増減額	増減率	予想値	増減額	増減率
コンサルティングサービス	1,520	1,289	+231	+17.9%	2,369	▲849	▲35.8%
受託システム開発	15,369	14,451	+918	+6.4%	15,235	+134	+0.9%
ソフトウェア製品	8,986	6,603	+2,383	+36.1%	10,675	▲1,689	▲15.8%
ソフトウェア商品	21,067	19,622	+1,445	+7.4%	20,582	+485	+2.4%
アウトソーシング・運用保守 サービス	2,892	4,822	▲1,930	▲40.0%	2,950	▲58	▲2.0%
情報機器販売・その他	4,028	6,202	▲2,174	▲35.1%	3,653	+375	+10.3%
合計	53,865	52,992	+873	+1.6%	55,466	▲1,601	▲2.9%

(注意) 2009年10月1日付けで、連結子会社であった株式会社プレイニーワークス、株式会社iSiDテクノソリューションズをiSiD単体へ統合しております。2010年4月より、主としてアウトソーシング・運用保守サービスの案件の一部を子会社であるiSiDアドバンストアウトソーシングに移管しております。

◆ 2011年3月期下期業績予想＜連結＞

サマリ・下期

(単位:百万円)

	11年3月期 下期	前年同期との比較			7/30発表予想値との比較		
		10年3月期 下期	増減額	増減率	予想値	増減額	増減率
売上高	32,858	32,444	+414	+1.3%	34,460	▲1,602	▲4.6%
営業利益	1,322	1,416	▲94	▲6.6%	2,158	▲836	▲38.7%
営業利益率	4.0%	4.4%	▲0.4pts	—	6.3%	▲2.2pts	—
経常利益	1,190	1,314	▲124	▲9.4%	2,165	▲975	▲45.0%
当期純利益	634	1,166	▲532	▲45.6%	1,243	▲609	▲49.0%

◆ 2011年3月期下期業績予想＜連結＞

セグメント別売上高・下期

(単位:百万円)

	11年3月期 下期	前年同期との比較			7/30発表予想値との比較		
		10年3月期 下期	増減額	増減率	予想値	増減額	増減率
金融ソリューションセグメント	9,453	9,946	▲493	▲5.0%	10,468	▲1,015	▲9.7%
エンタープライズソリューション・ ビジネス系セグメント	7,499	6,969	+530	+7.6%	8,094	▲595	▲7.4%
エンタープライズソリューション・ エンジニアリング系セグメント	10,189	10,053	+136	+1.4%	10,081	+108	+1.1%
コミュニケーションITセグメント	5,715	5,474	+241	+4.4%	5,813	▲98	▲1.7%
合計	32,858	32,444	+414	+1.3%	34,460	▲1,602	▲4.6%

(注意) セグメント別の前期数値(10年3月期)については、参考数値となります。また、2010/5/12の決算発表資料に記載した数値から若干修正を加えております。

◆ 2011年3月期下期業績予想＜連結＞

サービス品目別売上高・下期

(単位:百万円)

	11年3月期 下期	前年同期との比較			7/30発表予想値との比較		
		10年3月期 下期	増減額	増減率	予想値	増減額	増減率
コンサルティングサービス	1,651	1,149	+502	+43.7%	1,837	▲186	▲10.1%
受託システム開発	9,429	9,577	▲148	▲1.5%	10,098	▲669	▲6.6%
ソフトウェア製品	5,048	4,786	+262	+5.5%	6,267	▲1,219	▲19.5%
ソフトウェア商品	11,411	11,069	+342	+3.1%	11,040	+371	+3.4%
アウトソーシング・運用保守 サービス	2,540	2,476	+64	+2.6%	2,709	▲169	▲6.2%
情報機器販売・その他	2,778	3,386	▲608	▲18.0%	2,507	+271	+10.8%
合計	32,858	32,444	+414	+1.3%	34,460	▲1,602	▲4.6%

◆ 2011年3月期下期業績予想＜個別＞

サマリ・下期

(単位:百万円)

	11年3月期 下期	前年同期との比較			7/30発表予想値との比較		
		10年3月期 下期	増減額	増減率	予想値	増減額	増減率
売上高	28,371	30,619	▲2,248	▲7.3%	30,176	▲1805	▲6.0%
営業利益	1,219	1,338	▲119	▲8.9%	1,667	▲448	▲26.9%
営業利益率	4.3%	4.4%	▲0.1pts	—	5.5%	▲1.2pts	—
経常利益	1,224	1,345	▲121	▲9.0%	1,771	▲547	▲30.9%
当期純利益	775	855	▲80	▲9.4%	946	▲171	▲18.1%

(注意) 2009年10月1日付けで、連結子会社であった株式会社プレイニークス、株式会社iSiDテクノソリューションズをiSiD単体へ統合しております。

◆ 2011年3月期下期業績予想＜個別＞

事業セグメント別売上高・下期

(単位:百万円)

	11年3月期 下期	前年同期との比較			7/30発表予想値との比較		
		10年3月期 下期	増減額	増減率	予想値	増減額	増減率
金融ソリューションセグメント	7,993	8,798	▲805	▲9.1%	9,299	▲1,306	▲14.0%
エンタープライズソリューション・ ビジネス系セグメント	7,191	6,874	+317	+4.6%	7,667	▲476	▲6.2%
エンタープライズソリューション・ エンジニアリング系セグメント	9,462	9,494	▲32	▲0.3%	9,486	▲24	▲0.3%
コミュニケーションITセグメント	3,723	5,452	▲1,729	▲31.7%	3,723	-	-
合計	28,371	30,619	▲2,248	▲7.3%	30,176	▲1,805	▲6.0%

(注意) 2009年10月1日付けで、連結子会社であった株式会社プレイニーワークス、株式会社iSiDテクノソリューションズをiSiD単体へ統合しております。2010年4月より、主としてコミュニケーションITセグメントの案件の一部を、子会社であるiSiDアドバンストアウトソーシングに移管しております。

◆ 2011年3月期下期業績予想＜個別＞

サービス品目別売上高・下期

(単位:百万円)

	11年3月期 下期	前年同期との比較			7/30発表予想値との比較		
		10年3月期 下期	増減額	増減率	予想値	増減額	増減率
コンサルティングサービス	1,019	715	+304	+42.5%	1,289	▲270	▲20.9%
受託システム開発	8,160	8,562	▲402	▲4.7%	8,821	▲661	▲7.5%
ソフトウェア製品	4,980	4,741	+239	+5.0%	6,256	▲1,276	▲20.4%
ソフトウェア商品	10,941	10,947	▲6	▲0.1%	10,686	+255	+2.4%
アウトソーシング・運用保守 サービス	1,475	2,353	▲878	▲37.3%	1,624	▲149	▲9.2%
情報機器販売・その他	1,793	3,299	▲1,506	▲45.7%	1,499	+294	+19.6%
合計	28,371	30,619	▲2,248	▲7.3%	30,176	▲1,805	▲6.0%

(注意) 2009年10月1日付けで、連結子会社であった株式会社プレイニーワークス、株式会社iSiDテクノソリューションズをiSiD単体へ統合しております。2010年4月より、主としてアウトソーシング・運用保守サービスの案件の一部を子会社であるiSiDアドバンストアウトソーシングに移管しております。

新中期経営計画 ISiD Open Innovation 2013

代表取締役社長 最高執行責任者
釜井 節生

COPYRIGHT 2010 INFORMATION SERVICES INTERNATIONAL - DENTSU, LTD. ALL RIGHTS RESERVED.

1. 事業環境認識 ～外部環境～

企業の経営課題

さらなる経営効率向上に向け…

- コスト削減、業務プロセス効率化
- 意思決定の迅速化

さらなる成長実現に向け…

- 新規市場・地域への事業拡大
- 新規顧客獲得

社会の対処すべき課題

- 少子高齢化、医療・介護、環境・エネルギー等諸問題

情報技術の変化

- 既存技術のコモディティ化進行
- 新規技術による新たなビジネスモデルの創出

企業・社会の発展にITの貢献が一層必要

今後のIT需要の方向性

- クラウドコンピューティングはじめ新技術の導入拡大
コスト削減や新たなビジネス創出へ
- マーケティング・販促分野においても、IT活用による新たな仕組みや手法の開発・導入が加速
- 企業の海外IT投資拡大
- IFRS導入に伴い広範な経営管理領域でIT需要拡大
- 社会インフラ分野のIT需要拡大
政府IT戦略2020年までに70兆円市場創出

IT市場の競争は激化

- 同業他社との競争に加え、異業種との競争も増加
- ビジネスモデル変革も必要

2. 事業環境認識 ～内部課題～

事業 ポートフォリオ

- ・既存事業領域での競争力の強化
- ・先端技術活用による新規事業開発
- ・社会インフラ関連事業への参画
- ・電通グループ企業としての優位性発揮
- ・安定収益基盤の拡充

顧客 ポートフォリオ

- ・新たな顧客・業種の開拓
- ・中位顧客の深耕

人材 ポートフォリオ

- ・ビジネスアーキテクト・ITアーキテクトの増強/営業力強化
- ・モチベーションアップに繋がる人事制度

収益構造

- ・原価率・販管費率の継続的改善

3. 中期経営計画 6つの方針

1

競争優位分野への集中

2

電通との協業加速

3

先端技術活用による新規ビジネスの開発

4

人材力強化

5

安定収益基盤の拡充

6

コスト構造改革

3. 中期経営計画 6つの方針

1. 競争優位分野への集中

セグメント共通方針

選択と集中

- 競争優位分野へ経営リソースを集中し、競争力を強化する。

顧客インサイト

- 顧客インサイトを徹底的に追求し、求められるソリューションを的確に提案する営業力・提案力を強化する。

クラウド

- ISiDクラウドサービス“CLOUDiS”および海外ベンダーとのパートナーシップによる最適ソリューションの提供を推進する。

グローバル

- 中国・アジアを中心に当社グローバル事業を強化し、顧客の海外展開を支援する。

3. 中期経営計画 6つの方針

1. 競争優位分野への集中

セグメント別注力分野

金融ソリューションセグメント

欧米の先端金融テクノロジーによる
市場系ソリューションのサービスビジネス開拓

地域社会活性化を目指した
『バリューチェーンファイナンスプラットフォーム』(*1)の提供

日系金融機関の海外進出の支援と
現地での自社製品販売の拡大

コミュニケーションITセグメント

電通及び電通グループ基幹システムの高度化、効率化

ITソリューションにおける電通協業の加速

電通グループのデジタルビジネスを支える
マーケティングプラットフォームの開発・提供

エンタープライズソリューション ビジネス系セグメント

IFRSを見据えたグループ経営ソリューション拡充

統合サプライチェーンマネジメント (iSCM) (*2)
ソリューションの構築

コンサルティング機能の強化・拡充

エンタープライズソリューション エンジニアリング系セグメント

CAD、CAE、DM領域のソリューションの高度化

統合型PLMを軸にしたSIソリューション強化

構想設計領域でのソリューション強化

(*1) 非財務的項目も含めた企業価値の適切な評価に基づき、融資や経営支援を通じて更なる企業価値増大を促し地域経済の活性化を実現していく仕組み
(*2) integrated SCMの略。設計開発領域とSCM(生産・販売)領域のプロセスをシームレスに連携させ経営効率向上を実現する

3. 中期経営計画 6つの方針

dentsu

NEWS RELEASE

電通会社 発表
コーポレート・コミュニケーション部 広報課
105-7201 東京都港区赤坂1-5-1
Tel 03-6216-8041
http://www.dentsu.co.jp/

平成 22 年 10 月 8 日

2. 電通との協業加速

- 電通のクライアント向けソリューション提案における協業推進(国内、中国・アジア)
- 電通グループの統合マーケティングサービス開発・提供への参画
戦略プロジェクト
《ITソリューション・タスクフォース》
- デジタルマーケティングビジネスのIT基盤
《マーケティングプラットフォーム》の開発・提供
- ソーシャル・公共分野でのプロジェクトへの積極参加と社会貢献

電通グループがマーケティング・プロセス全体をサポートする
「マーケティング・クラウド」サービスの開発・提供開始

株式会社電通(本社:東京、社長:高嶋達雄)は、情報システム系子会社の株式会社電通国際情報サービス(本社:東京、社長:釜井節生 以下 ISiD)と世界中でクラウド・サービスを提供する米国セールスフォース・ドットコム(以下 SFDC)の日本法人である株式会社セールスフォース・ドットコム(本社:東京、社長:宇陀栄次 以下 SFDC)との業務提携契約を機に、電通グループ各社が提供するITソリューションを活用した統合マーケティング・サービスと、SFDC が日本で提供する最先端のクラウド・サービスを融合させた、マーケティング・プロセス全体をサポートする「マーケティング・クラウド」サービスを、今後クライアント企業に向けて開発し、提供してまいります。

当社は、これまでもSFDC及びISiDとともに、いくつかの大型事業に係わる中で、過去に例を見ない規模のクラウド・コンピューティングシステムの開発・構築に携わってまいりました。

今回のサービスではまず、これまでに培ったノウハウをベースに、ITソリューションを活用した統合マーケティング・サービスを提供する戦略プロジェクト「ITソリューション・タスクフォース」を電通グループ内に立ち上げます。そして、日本国内にデータセンターの設置を予定し、国内におけるクラウド・サービスの積極的な提供を予定している SFDC と提携することで、「マーケティング・クラウド」をコンセプトとしたサービスの開発とその提供を通じ、新たな市場の創造にチャレンジしてまいります。

これまでの企業のマーケティング活動においては、IT 環境が成熟していなかったこともあり、「広告宣伝」「販売促進」「販売と顧客管理」というマーケティングの各段階における IT 化と可視化は、部分的にしか行われてきておりませんでした。すなわち、それぞれの段階におけるデータと知見が、一連の流れで有機的に結び付いて活用されるというレベルには達していませんでした。

今回開発・提供する「マーケティング・クラウド」サービスでは、これまで困難であったデータの統合管理やマーケティング・プロセス全体(商品開発→製造→物流・流通→プロモーション・販売→検証・分析→アフターサービス)の管理を、クラウド・コンピューティングを活用することで、よりスムーズに行うことを可能にします。例えば、すべてのデータがリアルタイムに一つの画面で確認できるマーケティング・ダッシュボードの機能をはじめ、電通独自のマーケティング・ツールやデータベースをクラウド上に提供することで、企業のマーケティング活動を素早く、かつ効果的に支援できるようにいたします。

本サービスでは、企業のマーケティング・プロセスと営業活動や CRM 活動を結び付けることができるため、業務の設計からシステムの導入、オペレーションの実施までのトータルなマーケティング活動の管理にお役立ていただけるものになります。

以上

COPYRIGHT 2010 INFORMATION SERVICES INTERNATIONAL

1 / 1

37

3. 中期経営計画 6つの方針

iSiD
IT Solution Innovator

3. 先端技術活用による新規ビジネスの開発

先端技術の応用研究とビジネス開発機能を融合した
『ISiDイノベーションラボ(仮称・新設)』を推進母体とし、
新規事業軸を構築する。

- 先端技術・ビジネスモデル等のグローバル調達力強化
- 産学共同による先端技術研究
- 先端技術の先行適用によるビジネス開発
- 社内ビジネスインキュベーションの推進
- 社会インフラ基盤整備等 社会が抱える課題に対応するソリューション開発

取り組み例



日本語の意味を解析する技術NLU(*)エンジンを利用した製品開発

- 徳島大学青江研究室の研究成果の事業化製品NLU(自然言語理解)エンジンを利用して、ブログやTwitterなどのサイト情報を自動的に意味解析。口語表現から話題・感性・意図情報の抽出が可能で、口コミ評価のモニタリングによる企業のレピュテーションリスクや自社製品の市場動向のウォッチなどへの適応を検討。

(*) Natural Language Understanding



ユビキタス技術の社会適用研究

立命館大学ユビキタス環境研究室(西尾信彦教授)との共同研究

- スマートフォンを活用したライフログセンシングのサービスアプリケーション基盤を構築。消費者の行動ログ、購買ログといったライフログの蓄積・分析ビジネスの展開可能性を検討。
- エネルギーハーベスティング(環境発電)方式による低コストな屋内測位技術(特許出願中)の研究開発。



屋内測位技術(IMES)を活用した位置連携広告配信プラットフォーム研究

宇宙航空研究開発機構宇宙オープンラボ採択案件

- 宇宙航空研究開発機構(JAXA)と測位衛星技術(株)が特許を取得している屋内測位技術IMESを用いた屋内外のシームレス測位手法を研究。屋外・屋内を移動する個人に対して、位置に連動した広告を配信するプラットフォームを開発することにより、ユビキタス社会に適した情報提供プラットフォームを構築する

COPYRIGHT 2010 INFORMATION SERVICES INTERNATIONAL - DENTSU, LTD. ALL RIGHTS RESERVED.

3. 中期経営計画 6つの方針

4. 人材力強化

- 人材育成プログラムの継続的改善
 - ビジネスアーキテクト・ITアーキテクト育成
 - 営業力強化
- モチベーションアップにつながる人事制度改革

5. 安定収益基盤の拡充

- ISID-AOを核にBP0を含めた新規の運用保守事業の拡大
- ISID独自および海外系クラウド基盤上でのサービス拡大
- 新たな収益モデルの開発と導入

6. コスト構造改革

- 売上原価の抑制
 - オフショア開発の推進
 - 開発プロセスの高度化・効率化
- 販売管理費の継続的削減
 - 管理間接業務のシェアードサービス推進

4. 定量目標

<単位:百万円>	2010年度	2013年度
連結売上高	61,737	80,000
連結営業利益	1,284	5,500
営業利益率	2%	7%
ROE	—	8%

5. 中期経営計画達成へ向けて

ISID Open Innovation 2013

価値協創

ISIDグループは、
お客様、電通グループをはじめ、あらゆるパートナーとの
コラボレーションを通じて
時代を先取りした新しい価値を創出する。
その新たな価値によって
お客様や社会が抱える課題解決に貢献する。

注) この資料に記載しております売上高及び利益の予想数値は、
業界の動向、顧客の状況、その他現時点で入手可能な情報に
よる判断及び仮定により算出しております。
従いまして、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営に
おける内外の状況変化等により、実際の売上高及び利益は
当該予想とは異なる場合がありますのでご承知おきください。